

第2回神経難病リハビリテーション研究会

日時 平成24年11月30日（金曜日）16:30～18:30

会場 北九州国際会議場（第30回日本神経治療学会総会会場内）

代表世話人 小森哲夫（独立行政法人国立病院機構 箱根病院
神経筋・難病医療センター院長）

***参加費無料**

プログラム

◆開会挨拶：小森哲夫（独立行政法人国立病院機構 箱根病院神経筋・難病医療センター）

1 シンポジウム：意思伝達装置の新展開

座長：神作憲司（国立障害者リハビリテーションセンター研究所
脳機能系障害研究部・脳神経科学研究室）

(1) ブレインマシン・インターフェイス（BMI）と神経難病リハ

演者：神作憲司（国立障害者リハビリテーションセンター研究所
脳機能系障害研究部・脳神経科学研究室）

(2) 【自分の声をのこして使う】本人の「あ」「い」「う」…を用いた意思伝達の試み

演者：本間武蔵（都立神経病院リハビリテーション科 OT）

(3) 骨伝導聴覚刺激による事象関連電位 P300 型 BCI 構築に向けた検討

演者：千島 亮（信州大学院医学系研究科 OT）

2 ワークショップ：神経難病リハビリテーションの工夫

座長：花山耕三（東海大学）
中馬孝容（滋賀県立成人病センターリハビリテーション科）

(1) 遅延聴覚フィードバック装置で神経変性疾患の構音障害は短時間で改善する

演者：織田千尋（国立精神・神経医療研究センター病院 ST）

(2) 多系統萎縮症患者の呼吸管理 ～工夫した点と問題点～

演者：浅川孝司（吉野内科・神経内科医院リハビリテーション科 PT）

(3) 筋萎縮性側索硬化症患者における作業療法士が選定した福祉用具導入の実態調査

演者：大寺亜由美（北里大学東病院 OT）

◆開会挨拶：小林庸子（国立精神・神経医療研究センター病院）

事務局

独立行政法人国立病院機構箱根病院
神経筋・難病医療センター
〒250-0032 神奈川県小田原市風祭 412
TEL・FAX0465-20-7144（事務局直通）

後援

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業
【希少性難治性疾患患者に関する医療の向上及び患者
支援のあり方に関する研究】班
研究代表者：西澤正豊
分科会2分科会長：小森哲夫